

大原小学校に「南極の氷」が贈られました

9月11日(月)、海上自衛隊「しらせ」が持ち帰った南極の氷が、大原小学校へ贈呈されました。

これは、自衛隊鹿児島地方協力本部が、子どもたちに自然の大切さや南極の氷ができるまでの話、砕氷艦しらせの仕事などを知ってもらうために毎年、県内の小中学校へ贈っています。

講話では、南極の氷が溶けにくい理由や砕氷艦が氷を砕いて進む方法などの説明を受けました。

講話のあとは、全児童が氷に触れて、普通の氷との違いを確認しました。6年生の東郷誉隆さん(東大原自治会)は、「氷からパチパチと空気の弾ける音が聞こえた。手で触っていても数万年前の空気が弾けるのが分かった。」と興奮した様子で話してくれました。



大根占小学校が南日本新聞「若い目賞」を受賞

9月26日(火)、大根占小学校で南日本新聞「若い目賞」の授賞式が行われました。

これは、子どもたちに新聞への関心を持ってもらうことや、文章の作成能力を育てることを目的に2年前から始まった表彰で、毎月、県内の小学校、中学校、高校それぞれ1校ずつ選ばれて表彰されています。

大根占小学校では、平成27年から29年の間に、計9回の投稿が掲載されたことが評価されての受賞となりました。

代表で表彰状を受け取った4年生の城下雪乃さん(麓自治会)は、「新聞に自分の書いた作文が載ったときはうれしかった。これからも投稿を続けていきたい。」と今後の抱負を話してくれました。



錦江町MIRAI塾第4弾が開催されました

9月27日(水)、役場田代支所で「インターネットによる『流通』が田舎の農業経営を大きく変える」と題し、ITベンチャー企業プラネット・テーブル社の菊池社長による講演会が行われ、町内外から64名の方々が聴講されました。

遊喜光範さん(瀬戸山自治会)は、「農家にとって、安定した売り先の確保は重要な課題。また、消費者ニーズをいち早く知ること、新品種への取り組みや作る時期などが調整でき、もうかる農業につながるができる。後継者不足や輸送コストなど課題は多いが、今までにない取り組みで錦江町農業を発展させたい。」と思いを語りました。



きんこうスポーツクラブが始まりました!

9月13日(水)、田代保健福祉センターで第1回スポーツ教室「ストレッチ・ヨガ」を行いました。

これは、錦江町で平成31年から正式にスタートする総合型地域スポーツクラブの設立を前に、toto(スポーツ振興くじ)から創設支援事業補助を受けて開催したものです。世代間交流や運動不足の解消を目的に文部科学省が推進しているものです。

参加した古本真奈美さん(下自治会)は、「難しいポーズもあったが、普段使わない筋肉を使ったり伸ばしたり、とても気持ち良かった。みんなで笑いながら体を動かせるのでとても楽しい。これからもスポーツを通じて健康づくりに取り組みたい。」と話されました。

